**セルフメディケーション推進事業**

**地域住民（来局者）への、セルフケア啓発ポスターおよび啓発チラシの活用について**

　　　　　　　　　　　　　　　　（一社）佐賀県薬剤師会　薬局業務委員会

　〇白木貴史　青木孝司　江口佳徳　宇土隆　田﨑美由紀　片江富貴子

　光田秀平　久保博嗣　原佳佑　島原丈敏　古賀哲郎　野村忠之

背景

これまで薬局業務委員会では、厚労省の唱える「患者のための薬局ビジョン」の実現に向け、会員薬局が「かかりつけ薬剤師・薬局」機能を持っていただくために様々な研修会を企画、運営してきた。しかしながら、地域住民にはいまだ「かかりつけ薬剤師・薬局」の制度そのものや、その活用法が十分に認識されておらず、「保険薬局は健康維持・増進に関する一番身近な相談窓口である」ということが浸透していないのが実情と思われる。このような背景のもと、薬局業務委員会では、「かかりつけ薬剤師・薬局」は地域住民との信頼関係を構築することがまずなによりも重要であると考え、近隣医療機関からの処方箋応需以外に、地域住民のためにその薬局の担える機能を告知、認識していただくツールを作成した。

目的

薬局業務委員会ではセルフメディケーション推進事業の一つとして、会員薬局が地域住民に対し「相談応需」、「提案」、「セルフケア推進」を行えるようなポスターとチラシを作成した。しかしながら、その目的や活用方法が会員へ周知されていないのではと考え、今回、製作者側から期待するその活用方法について言及する。

方法

委員の勤める薬局にて、ポスターを掲示し、来局者へチラシを配布、説明し、その反応をまとめた。

結果

来局者の多くは、保険薬局における「かかりつけ薬剤師・薬局」機能、「セルフケア推進」機能についての知識を持たず、今回、薬剤師が説明することによって「保険薬局は健康維持・増進に関する一番身近な相談窓口である」という認識が生まれた。

結論

これから多くの会員薬局がツールを活用することで、自局に必要な機能、不足している機能等を把握し、今後何に取り組むべきかを明確に認識することで、会員薬局が地域住民のための「健康サポート薬局」を目指して活動されることを期待する。ひいては、会員薬局が多くの地域住民のかかりつけとなり、集客され発展されることを願う。

また、今後は、会員薬局がツールを活用した結果を検証し、ツールのメンテンスに反映させ、課題としたい。